

☑ 国立／私立の学校への入学・編入学

学校ごとに帰国生を受け入れる理由、受け入れ体制もさまざまなので、教育理念、カリキュラム、校風などをよく見て、本人に合った学校を選ぶ。学校に関する情報収集、学力の把握、出願資格注意点、入学後の学校生活については、本誌「帰国への準備」および「各校取材記事」を参照。

◆帰国生受け入れの主な理由◆

- ・帰国生の受け入れを主な目的として設立。 ・多彩な個性の一つとして帰国生を受け入れる。
- ・国の施策や宗教的な理由から、国内の教育体制へのソフトランディングの場となる。
- ・「グローバル人材」として帰国生の持つ国際性や語学力に期待し、一般生への刺激となることを望む。
- ・学習意欲の高い帰国生に学校の進学実績への貢献を期待。 ・過去の帰国生受け入れ推進制度を現在も踏襲。
- ・帰国生教育や国際理解教育の研究対象、取り組みとして受け入れる。

◆主な受け入れ体制◆

【選考】

- ・特別入試や外国語での作文や面接、海外の学校の成績を評価するなど、帰国生の事情に合わせた入試制度を持つ。
- ・一般入試に準ずる学力試験を課すが、語学力や海外の成績等を考慮、理・社を免除するなど合格基準に配慮がある。
- ・一般入試の中にも、英検等の資格評価や、英語筆記試験などの英語重視型入試がある。

【入学・編入後】

- ・一般生との混合クラスで、基本的に同じカリキュラムで学ぶ。科目ごとに習熟度別あるいは選択制の授業を行ったり、取り出し授業、補習などで未履修分野を補ったりする。
- ・一般生と全く同様の立場で、帰国生向けの特別な制度はない。必要があれば補習などで補う。
- ・帰国、外国籍生徒のクラスがあり、一般生とは別のカリキュラムで学習する(減少傾向、実施学年は各学校による)。

《 国 立 の 学 校 》

国立大学附属の学校は公立校と異なり、各大学が独自に教育方針を決めるため、教育研究の一環としてユニークな内容の授業も行われる。入学、編入後は一般生徒との混入クラスが多いが、帰国生、外国籍生徒で別クラスの場合もある。

- 【注意点】**・入学、編入には柔軟な対応の学校でも、併設校への内部進学時には、帰国生への特別な考慮はないことに注意。
「進学できるのは全体の7割」など定員が決まっている学校もあり、塾などの受験対策が必要な場合もある。
・通学時間や区域に制限が設けられているので、住まいを選ぶ際に募集要項で確かめておく。

《 私 立 の 学 校 》

◆小学校

学習指導要領を基本とするが、授業時間数は公立校よりも概して多く、特色ある教育を行っている(英語学習、国際交流、体験学習、情操教育、宗教教育や、問題集などを使用した発展的な学習、中学受験を意識した前倒し授業など)。

- 【注意点】**・中学以降の進路も考えて学校を選ぶ。併設中学への内部進学と外部受験をする人数の割合などに着目する。

◆中学校・高等学校

- ・帰国生入試に代えて、一般入試として英語の資格、作文や面接を重視する入試方法が増えてきている。
- ・大学受験に向けた前倒しカリキュラムや、理科教育、英語教育、ICTの活用、IBプログラムなど、それぞれに特色を打ち出している。また大学附属の中高では、受験にとらわれない独自の取り組みを行っている。
- ・身だしなみや携帯電話の所持などは、各校の校則によって指導が行われ、校風が表れる。

- 【注意点】**・高校入学の場合、原則としてその国の学校教育9年の課程を修了または3月末までに修了見込みであることが条件になっているが、一部の私立校では次年度の6月修了見込みも可としている場合もある。帰国生編入試については、出願を海外からのみ認め、国内他校に在籍の帰国生には認めない学校もあるので注意が必要。
・保護者との同居が条件の学校もある。
・中高一貫校で、大学入試に向けた「前倒しカリキュラム」の学校では、高校からの入学生は別クラスになることが多く、内部生と混入の場合は、授業の進度に「追いつく」努力が必要なこともある。